連 合
JTUC

Press Release

2026 年 11 月 24 日

報道関係者　各位

若年者の就業およびキャリアに関する調査2026

日本労働組合総連合会（略称：連合、所在地：東京都千代田区、会長：芳野　友子）は、若年者の就業およびキャリアに関する意識・実態を把握するため、連合総合生活研究所（略称：連合総研、所在地：東京都千代田区、理事長：清水　秀行）と共同で「若年者の就業およびキャリアに関する調査2026」をインターネットリサーチにより実施し、就労経験のある全国の25歳～34歳の男女1,000名の有効サンプルを集計しました。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）

【調査結果のポイント】

≪若年者のキャリア意識について≫

◆「自身の今後のキャリアについて考えることがある」51.6%

◆卒業後の最初の勤め先選びで重視したことTOP3 「給与・待遇」「勤務地」「業界・業種」

◆若年層が望むキャリアTOP2
「ワークライフバランスを重視できるキャリア」「安定して長く働けるキャリア」

≪若年者のキャリア形成のための取り組みについて≫

◆キャリア形成に対する現在の行動 「目標を持っていない」が59.0%

◆キャリア形成のために現在取り組んでいることTOP3
「資格取得」「インターネットや動画等での学習・情報収集」
「転職サイトや求人情報の確認」

◆キャリア形成を進めるにあたって必要だと感じる支援
1位「自分に合う仕事や働き方を考える機会」

≪若年者のキャリアの不安と労働組合への期待について≫

◆「今後のキャリアについて不安に感じる」52.0%、契約・派遣社員では64.2%

◆キャリアについて悩んだとき、実際に相談したことがある、
もしくは相談できる相手TOP3
「家族・友人」「勤め先の先輩・同僚」「勤め先の上司」

◆「キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に役割を期待できると思う」43.7%
期待できる役割　1位「職場の悩みや違和感を相談できること」

≪若年者のワークルールの認識について≫

◆働くうえで必要な基本的な決まりである“ワークルール”の理解状況
「理解している」41.1%、「理解していない」38.2%
理解率は労働組合が勤め先にある人では64.3%と高い傾向

◆「ワークルールを理解していることは、働くうえで重要だと思う」55.0%

調査に関するコメント

日本労働組合総連合会
総合政策推進局長
菅村　裕子

本調査は、就労経験のある若年者を対象として、現在の働き方や今後のキャリアをどのように受け止め、どのような不安や支援ニーズを抱えているのかを把握するとともに、若年層が安心して働き、学び、成長しながら主体的にキャリアを形成できる社会の実現に向けた課題を明らかにすることを目的として実施しました。調査結果からは、若年者の 51.6%が自身の今後のキャリアについて考えている一方で、明確なキャリアイメージを持つ人は 24.9%にとどまり、将来のキャリア展望について明確ではない人も少なくないことがわかりました。

若年者のキャリア形成に向けた取り組みを見てみると、「キャリアの目標を持っていない」が59.0%、「まだキャリアの築き方について考えていない・わからない」が 40.1%と高い割合を占めています。一方で、キャリア形成のために現在取り組んでいること１位の「資格取得」が 18.3%にとどまるなど、主体的にスキル向上に取り組む人は、それほど多くない傾向がみてとれます。

ワークルールについては、「理解している」が 41.1%にとどまっていますが、勤め先に労働組合がある人では 64.3%と高い傾向がみられました。また、「キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に役割を期待できると思う」と回答した人は、全体（43.7%）と比べて現在労働組合に加入している人（65.8%）の割合が高く、労働組合との接点の有無によって期待度に差がみられました。

今回の調査結果から、若年者の多くが将来のキャリアについて関心があるものの、不安も抱えており、明確なキャリアイメージを持てていない実態が明らかになりました。DX の進展や AI など、雇用や業務の変化に対する不安とともに、今後、必要となるスキル・知識の情報を十分に得られていないこともその一因と考えられます。こうした状況を踏まえれば、若年者が自身の適性や希望に応じたキャリアを主体的に描けるよう、キャリア教育や相談体制の構築など、現場の労使が協力して能力開発支援を充実させていくことが重要です。

連合は、若年者が将来に希望を持ち、自らのキャリアを主体的に形成できる環境整備を求めるとともに、キャリアに関する不安や悩みを抱えた労働者が相談できる環境整備など、すべての働く者が安心して働き続けることのできる社会の実現に向けて、引き続き取り組みを進めてまいります。

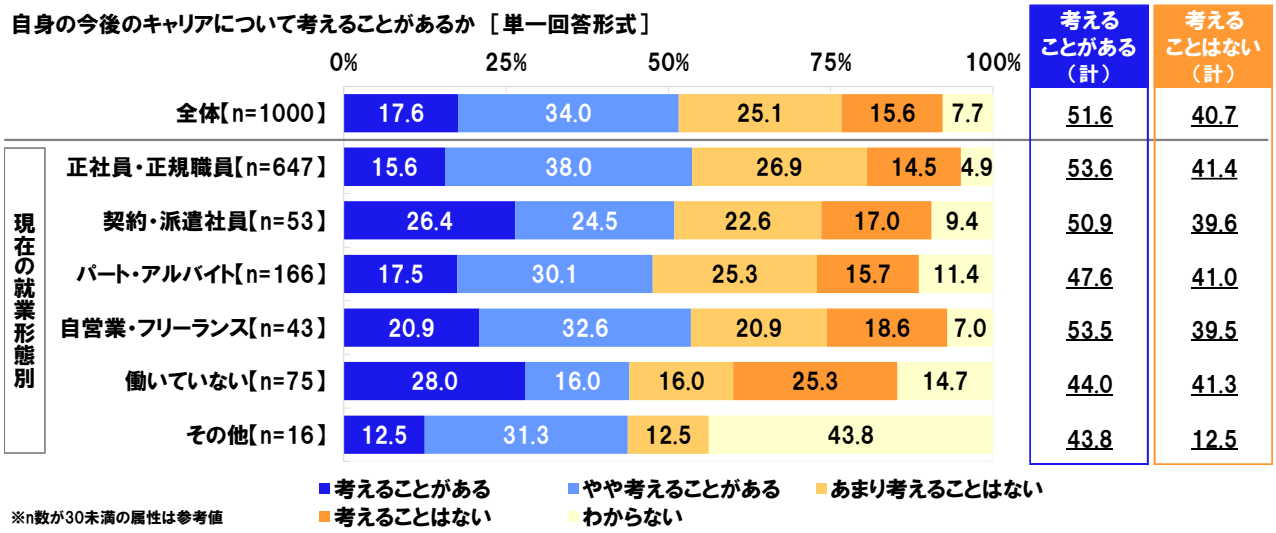
調査結果

≪若年者のキャリア意識について≫

◆「自身の今後のキャリアについて考えることがある」51.6%

就労経験のある全国の 25 歳～34 歳の男女 1,000 名（全回答者）に、キャリアについて質問しました。

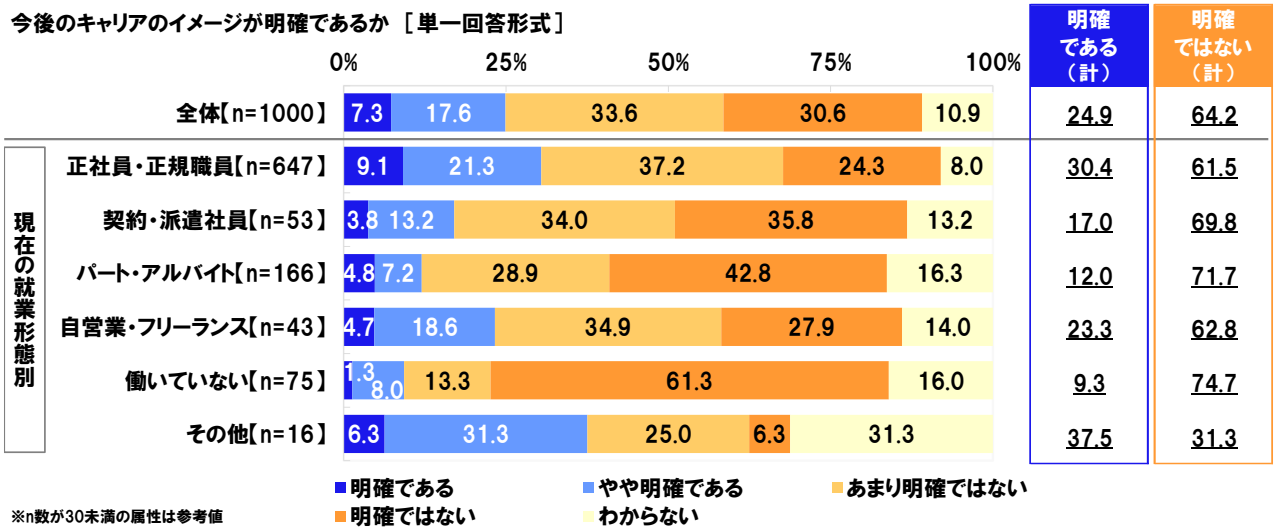
はじめに、自身の今後のキャリアについて考えることがあるか聞いたところ、「考えることがある」は 17.6%、「やや考えることがある」は 34.0%で、合計した『考えることがある（計）』は 51.6%、「考えることはない」は 15.6%、「あまり考えることはない」は 25.1%、合計した『考えることはない（計）』は 40.7%、「わからない」は 7.7%となりました。



◆「今後のキャリアのイメージが明確である」24.9%

今後のキャリアのイメージが明確であるか聞いたところ、『明確である（計）』は 24.9%、『明確ではない（計）』は 64.2%、「わからない」は 10.9%となりました。

現在の就業形態別にみると、『明確である（計）』と回答した人の割合は、契約・派遣社員では 17.0%、パート・アルバイトでは 12.0%、働いていない人では 9.3%となり、正社員・正規職員（30.4%）と大きく差が開きました。

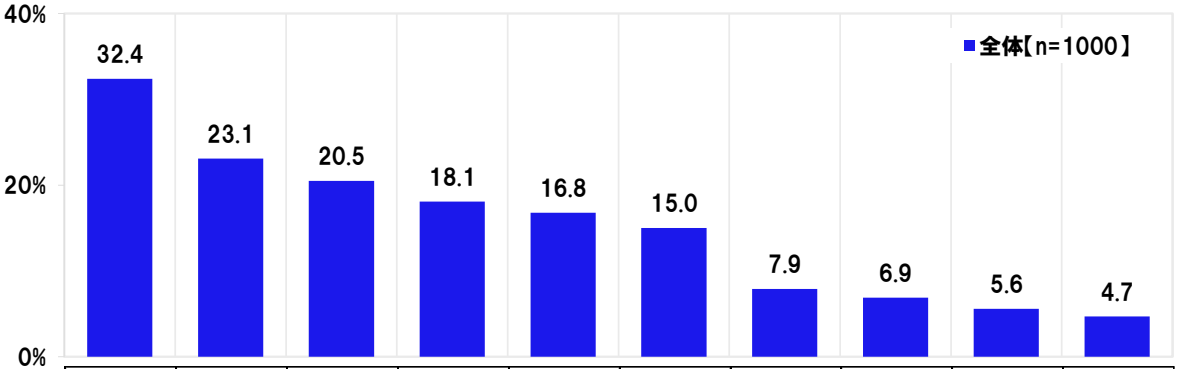


◆卒業後の最初の勤め先選びで重視したこと TOP3 「給与・待遇」「勤務地」「業界・業種」

次に、全回答者（1,000 名）に、学校卒業後、最初の勤め先を選んだ際、重視したことを聞いたところ、「給与・待遇」（32.4%）が最も高く、次いで、「勤務地」（23.1%）となりました。条件のよさを重視した人が多いようです。以降、「業界・業種」（20.5%）、「職種」（18.1%）、「雇用が安定していること」（16.8%）が続きました。

離職経験の有無別にみると、離職経験がある人では、「勤務地」（28.3%）は 10 ポイント以上、「給与・待遇」（35.0%）と「職種」（22.4%）は５ポイント以上、離職経験がない人（順に 17.7%、29.7%、13.6%）より高くなりました。

学校卒業後、最初の勤め先を選んだ際、重視したこと ［複数回答形式（3つまで）］ ※上位10位までを表示



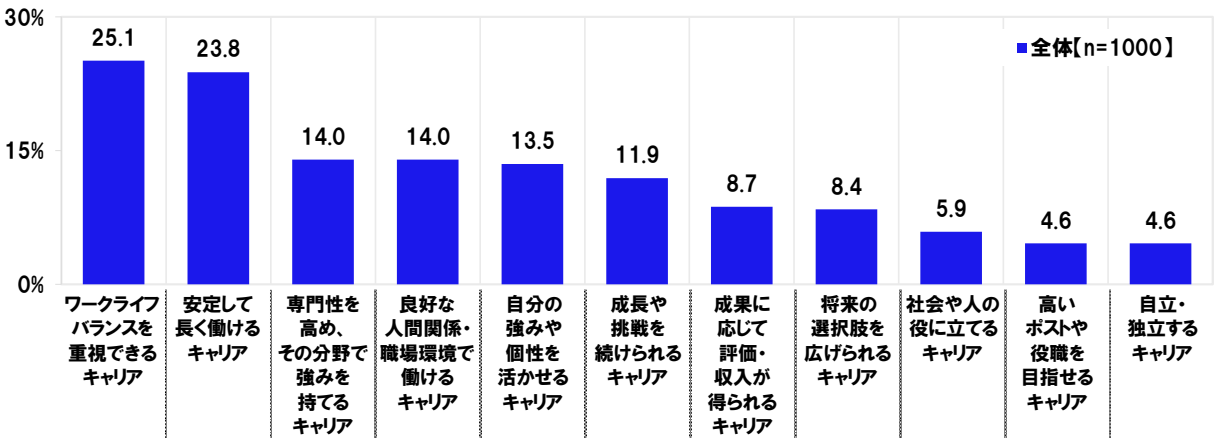
		n数	給与・待遇	勤務地	業界・業種	職種	雇用が安定していること	働き方・ワークライフバランス	社風や職場・社員の雰囲気	福利厚生	家族・友人・周りの人の声	企業の知名度や評判
全体		1000	32.4	23.1	20.5	18.1	16.8	15.0	7.9	6.9	5.6	4.7
離職経験	あり	509	35.0	28.3	21.6	22.4	16.9	16.9	9.4	6.7	5.3	5.1
	なし	491	29.7	17.7	19.3	13.6	16.7	13.0	6.3	7.1	5.9	4.3

■全体比+10pt以上/ ■全体比+5pt以上/ ■全体比-5pt以下/ ■全体比-10pt以下 （%）

◆若年層が望むキャリア TOP2 「ワークライフバランスを重視できるキャリア」「安定して長く働けるキャリア」

また、自身の望むキャリアとして、近いものはどれか聞いたところ、「ワークライフバランスを重視できるキャリア」（25.1%）と「安定して長く働けるキャリア」（23.8%）が特に高くなりました。学校卒業後の最初の勤め先を選ぶ際に重視したこととして、「給与・待遇」と「勤務地」が TOP2 となっており、就職時は待遇や勤務地を重視する一方、現在の望むキャリアではワークライフバランスや安定性を重視する傾向があるようです。以降、「専門性を高め、その分野で強みを持てるキャリア」「良好な人間関係・職場環境で働けるキャリア」（いずれも 14.0%）、「自分の強みや個性を活かせるキャリア」（13.5%）が続きました。

自身の望むキャリアとして、近いものはどれか ［複数回答形式（3つまで）］ ※上位10位までを表示



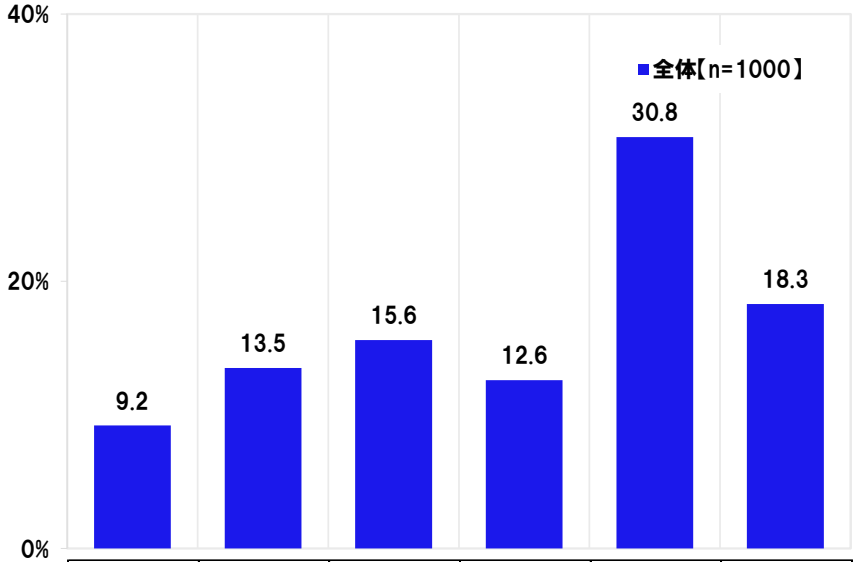
≪若年者のキャリア形成のための取り組みについて≫

◆キャリア形成に対する現在の行動 「目標を持っていない」が 59.0%

全回答者（1,000 名）に、キャリア形成に対する現在の行動として、最も近いものはどれか聞いたところ、「目標を持っておらず、行動もしていない」が 30.8%で、最も高くなりました。自身のめざしたいキャリア像が描けていない、そもそもめざしたいキャリアがないといったことなどから、行動できていないケースが多いのかもしれません。そのほか、「目標を持ち、積極的に行動している」が 9.2%、「目標を持っているが、行動は限定的である」が 13.5%、「目標を持っていないが、機会があれば行動している」が 15.6%、「まずは興味がわくキャリアを見つけたい」が 12.6%となり、目標を持っている人の割合は 22.7%、目標を持っていない人の割合は 59.0%となりました。

現在の就業形態別にみると、『目標を持っている（計）』と回答した人の割合は、契約・派遣社員では 15.0%、パート・アルバイトでは 15.6%、働いていない人では 9.4%となり、正社員・正規職員（26.4%）と大きく差が開きました。また、契約・派遣社員では「まずは興味がわくキャリアを見つけたい」（22.6%）が他の就業形態と比較して高くなりました。

キャリア形成に対する現在の行動として、最も近いものはどれか ［単一回答形式］



		n数	目標を持ち、積極的に行動している	目標を持っているが、行動は限定的である	目標を持っていないが、機会があれば行動している	まずは興味がわくキャリアを見つけたい	目標を持っておらず、行動もしていない	わからない	目標を持っている（計）	目標を持っていない（計）
全体		1000	9.2	13.5	15.6	12.6	30.8	18.3	22.7	59.0
現就業形態	正社員・正規職員	647	11.3	15.1	17.8	11.1	27.8	16.8	26.4	56.7
	契約・派遣社員	53	7.5	7.5	17.0	22.6	30.2	15.1	15.0	69.8
	パート・アルバイト	166	4.8	10.8	10.2	16.9	38.0	19.3	15.6	65.1
	自営業・フリーランス	43	9.3	20.9	16.3	9.3	16.3	27.9	30.2	41.9
	働いていない	75	2.7	6.7	8.0	10.7	53.3	18.7	9.4	72.0
	その他	16	6.3	6.3	12.5	12.5	12.5	50.0	12.6	37.5

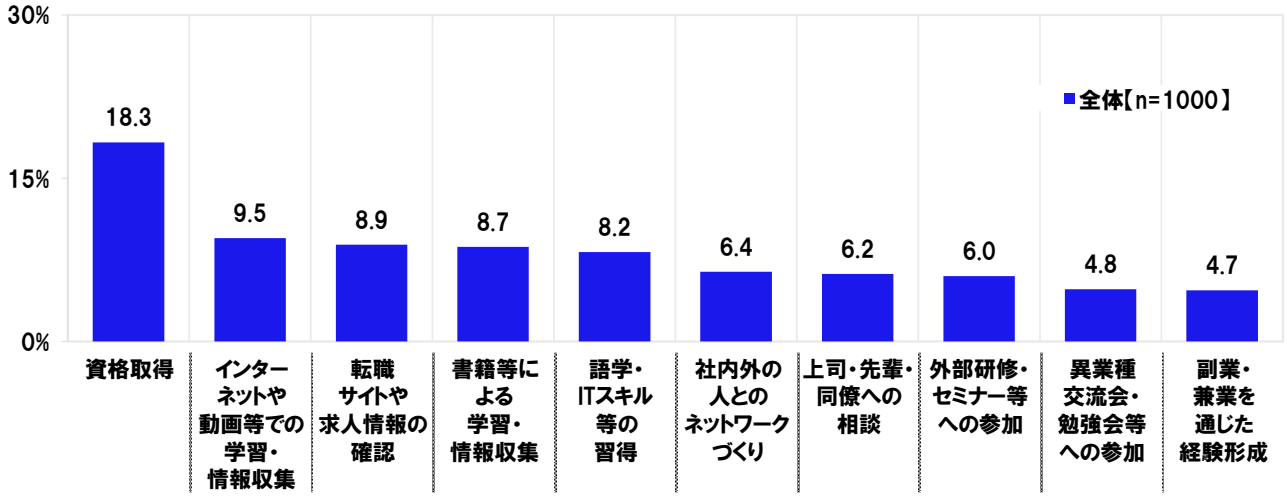
全体比+10pt以上／全体比+5pt以上／全体比-5pt以下／全体比-10pt以下　（%）

※n数が30未満の属性は参考値

◆キャリア形成のために現在取り組んでいることTOP3
「資格取得」「インターネットや動画等での学習・情報収集」「転職サイトや求人情報の確認」

全回答者（1,000 名）に、キャリア形成のために現在どのようなことに取り組んでいるか聞いたところ、「資格取得」（18.3%）が最も高く、「インターネットや動画等での学習・情報収集」（9.5%）、「転職サイトや求人情報の確認」（8.9%）、「書籍等による学習・情報収集」（8.7%）、「語学・IT スキル等の習得」（8.2%）が続きました。スキルアップのための取り組みや情報収集を行っている人が多いようです。

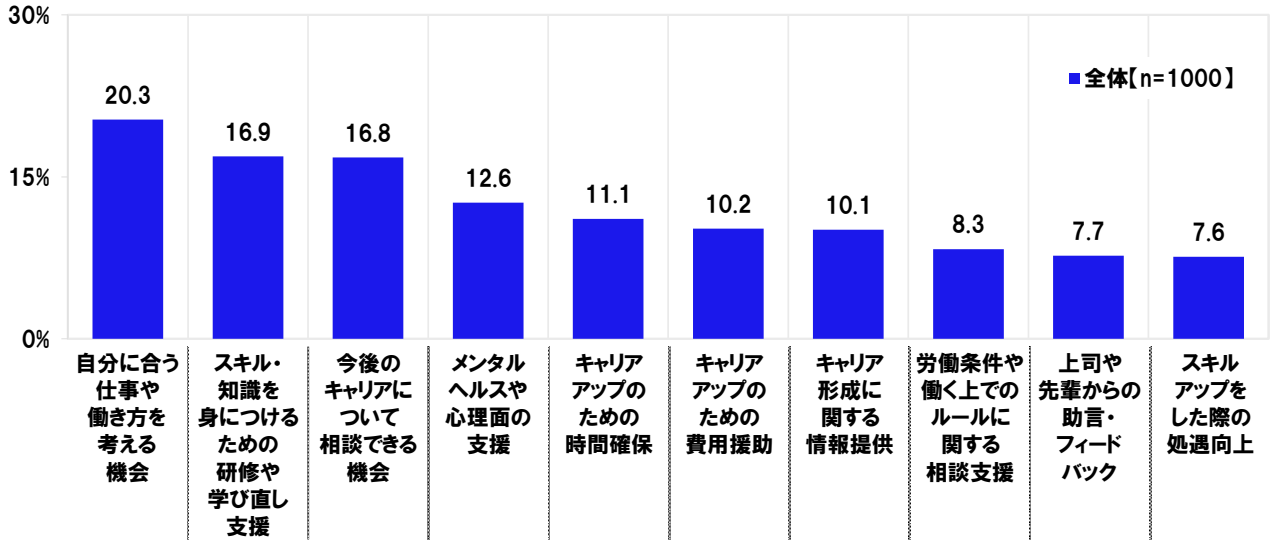
キャリア形成のために現在どのようなことに取り組んでいるか ［複数回答形式］ ※上位10位までを表示



◆キャリア形成を進めるにあたって必要だと感じる支援　1位「自分に合う仕事や働き方を考える機会」

全回答者（1,000 名）に、キャリア形成を進めるにあたり、どのような支援が必要だと感じるか聞いたところ、「自分に合う仕事や働き方を考える機会」（20.3%）が最も高くなりました。次いで、「スキル・知識を身につけるための研修や学び直し支援」（16.9%）、「今後のキャリアについて相談できる機会」（16.8%）、「メンタルヘルスや心理面の支援」（12.6%）、「キャリアアップのための時間確保」（11.1%）となりました。

キャリア形成を進めるにあたり、どのような支援が必要だと感じるか ［複数回答形式］ ※上位10位までを表示



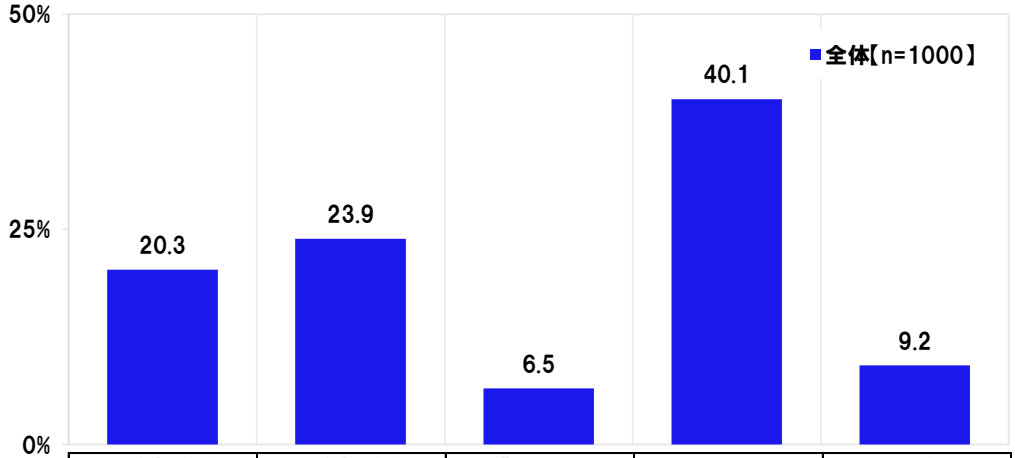
◆今後のキャリアの築き方の方向性

「1 つの会社・組織で働き続けながらキャリアを築きたい」20.3%
「1 つの会社・組織にこだわらず、必要に応じて転職しながらキャリアを築きたい」23.9%
「起業・独立してキャリアを築きたい」6.5%
「まだキャリアの築き方について特に考えていない・わからない」40.1%

今後のキャリアの築き方の方向性として最も近いものはどれか聞いたところ、「1 つの会社・組織で働き続けながらキャリアを築きたい」が 20.3%、「1 つの会社・組織にこだわらず、必要に応じて転職しながらキャリアを築きたい」が 23.9%、「起業・独立してキャリアを築きたい」が 6.5%となった一方、「まだキャリアの築き方について特に考えていない・わからない」が 40.1%となり、キャリアの方向性について不明確な人が多いことがわかりました。

現在の就業形態別にみると、自営業・フリーランスでは「起業・独立してキャリアを築きたい」（16.3%）が他の就業形態の人と比べて高くなりました。また、パート・アルバイトと働いていない人では「まだキャリアの築き方について特に考えていない・わからない」（順に 54.2%、60.0%）が過半数でした。

今後のキャリアの築き方の方向性として最も近いものはどれか ［単一回答形式］



		n数	1つの会社・組織で働き続けながらキャリアを築きたい	1つの会社・組織にこだわらず、必要に応じて転職しながらキャリアを築きたい	起業・独立してキャリアを築きたい	まだキャリアの築き方について特に考えていない・わからない	その他
全体		1000	20.3	23.9	6.5	40.1	9.2
現就業形態	正社員・正規職員	647	23.8	29.4	5.7	33.7	7.4
	契約・派遣社員	53	18.9	18.9	9.4	49.1	3.8
	パート・アルバイト	166	14.5	13.9	7.2	54.2	10.2
	自営業・フリーランス	43	11.6	14.0	16.3	39.5	18.6
	働いていない	75	10.7	12.0	4.0	60.0	13.3
	その他	16	12.5	6.3	6.3	31.3	43.8

※n数が30未満の属性は参考値　全体比+10pt以上／全体比+5pt以上／全体比-5pt以下／全体比-10pt以下　（%）

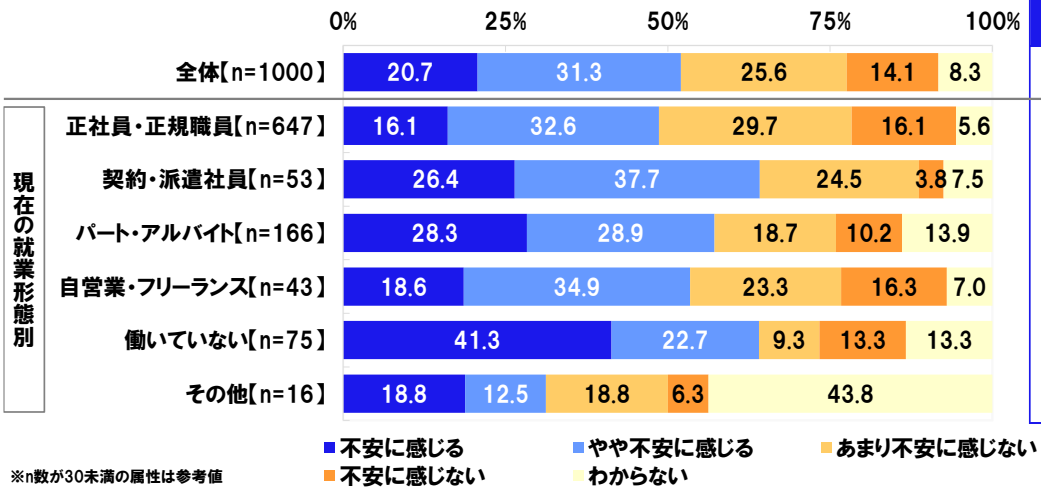
≪若年者のキャリアの不安と労働組合への期待について≫

◆「今後のキャリアについて不安に感じる」52.0%、契約・派遣社員では64.2%

全回答者（1,000 名）に、今後のキャリアについて不安に感じるか聞いたところ、『不安に感じる（計）』は52.0%、『不安に感じない（計）』は 39.7%となり、キャリアを不安視している人が半数以上でした。

現在の就業形態別にみると、契約・派遣社員と働いていない人では『不安に感じる（計）』（順に 64.2%、64.0%）が特に高くなりました。

今後のキャリアについて不安に感じるか ［単一回答形式］



	不安に感じる（計）	不安に感じない（計）
全体【n=1000】	52.0	39.7
正社員・正規職員【n=647】	48.7	45.7
契約・派遣社員【n=53】	64.2	28.3
パート・アルバイト【n=166】	57.2	28.9
自営業・フリーランス【n=43】	53.5	39.5
働いていない【n=75】	64.0	22.7
その他【n=16】	31.3	25.0

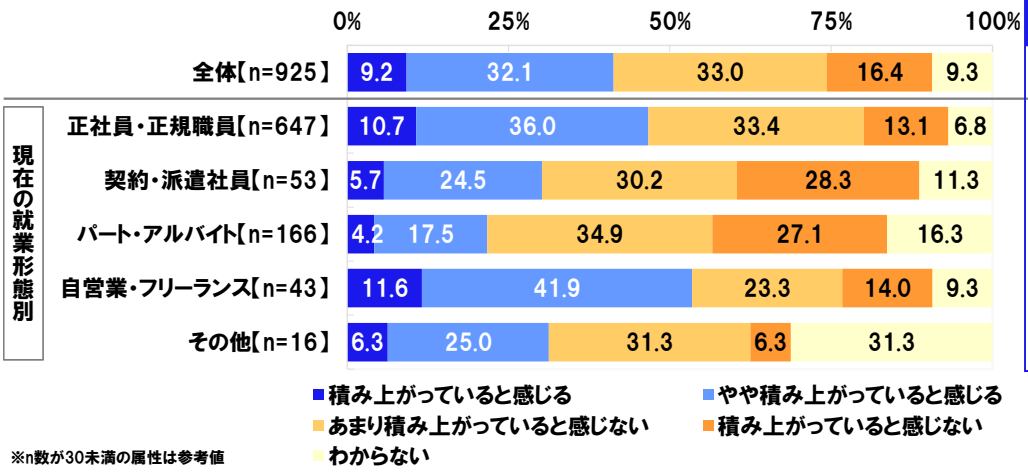
※n数が30未満の属性は参考値

◆「現在の職場で自分の能力や経験が積み上がっていると感じる」有職者の41.3%
契約・派遣社員とパート・アルバイトでは「積み上がっていると感じない」が過半数

有職者（925 名）に、現在の職場で自分の能力や経験が積み上がっていると感じるか聞いたところ、『積み上がっていると感じる（計）』は 41.3%、『積み上がっていると感じない（計）』は 49.4%となりました。

現在の就業形態別にみると、契約・派遣社員とパート・アルバイトでは『積み上がっていると感じない（計）』（順に 58.5%、62.0%）が過半数でした。他方、自営業・フリーランスでは『積み上がっていると感じる（計）』が53.5%となりました。

現在の職場で自分の能力や経験が積み上がっていると感じるか ［単一回答形式］
対象：有職者



	積み上がっていると感じる（計）	積み上がっていると感じない（計）
全体【n=925】	41.3	49.4
正社員・正規職員【n=647】	46.7	46.5
契約・派遣社員【n=53】	30.2	58.5
パート・アルバイト【n=166】	21.7	62.0
自営業・フリーランス【n=43】	53.5	37.2
その他【n=16】	31.3	37.5

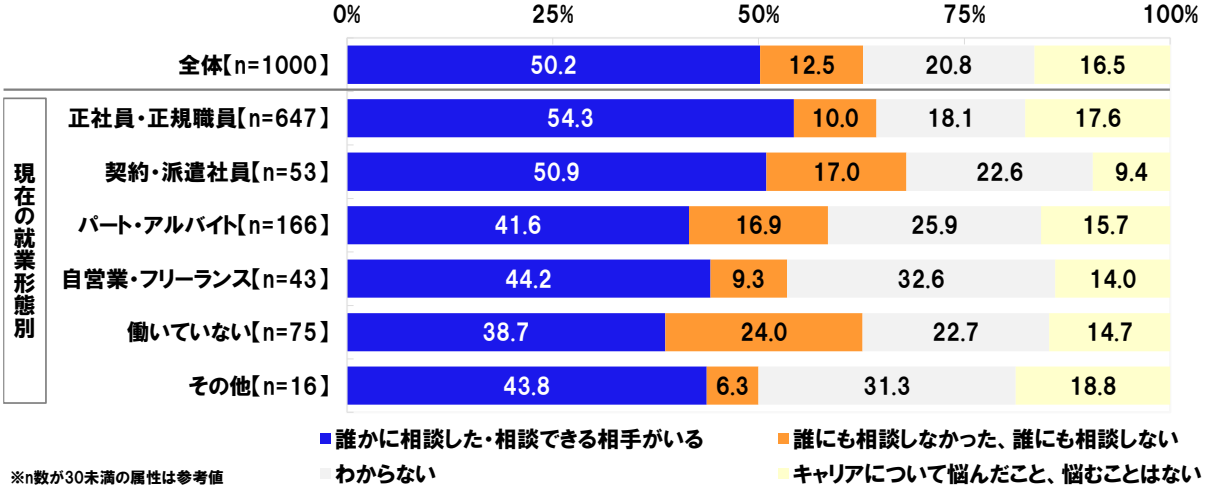
※n数が30未満の属性は参考値

◆「キャリアについて悩んだとき、実際に誰かに相談したことがある、もしくは相談できる相手がいる」50.2%
現在働いていない人では「誰にも相談しなかった、誰にも相談しない」が24.0%

全回答者（1,000 名）に、キャリアについて悩んだとき、実際に誰かに相談したことがあるか、もしくは相談できる相手がいるか聞いたところ、「誰かに相談した・相談できる相手がいる」は 50.2%、「誰にも相談しなかった、誰にも相談しない」は 12.5%、「わからない」は 20.8%、「キャリアについて悩んだこと、悩むことはない」は16.5%となりました。

現在の就業形態別にみると、働いていない人では、「誰にも相談しなかった、誰にも相談しない」が 24.0%と、他の就業形態の人と比較して高くなりました。

キャリアについて悩んだとき、実際に誰かに相談したことがあるか、もしくは相談できる相手がいるか

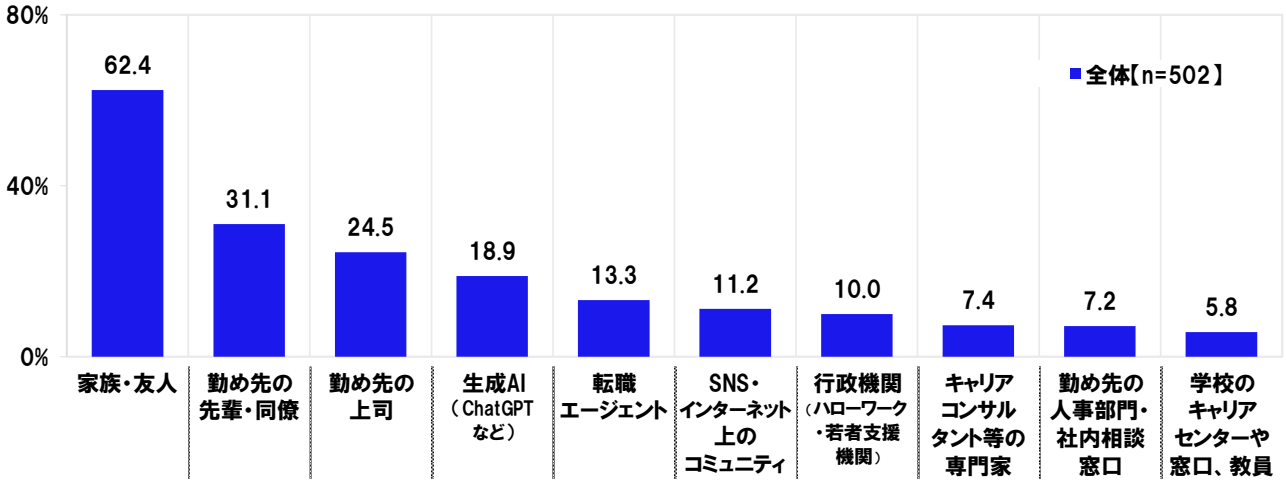


※n数が30未満の属性は参考値

◆キャリアについて悩んだとき、実際に相談したことがある、もしくは相談できる相手TOP3
「家族・友人」「勤め先の先輩・同僚」「勤め先の上司」

キャリアについて悩んだとき、実際に誰かに相談した・相談できる相手がいる人（502 名）に、実際に相談したことがある、もしくは相談できる相手を聞いたところ、「家族・友人」（62.4%）が最も高くなり、次いで「勤め先の先輩・同僚」（31.1%）、「勤め先の上司」（24.5%）、「生成 AI（ChatGPT など）」（18.9%）、「転職エージェント」（13.3%）となりました。

キャリアについて悩んだとき、実際に相談したことがある、もしくは相談できる相手はだれか ［複数回答形式］ ※上位10位までを表示
対象：キャリアについて悩んだとき、実際に誰かに相談したことがある、もしくは相談できる相手がいる人

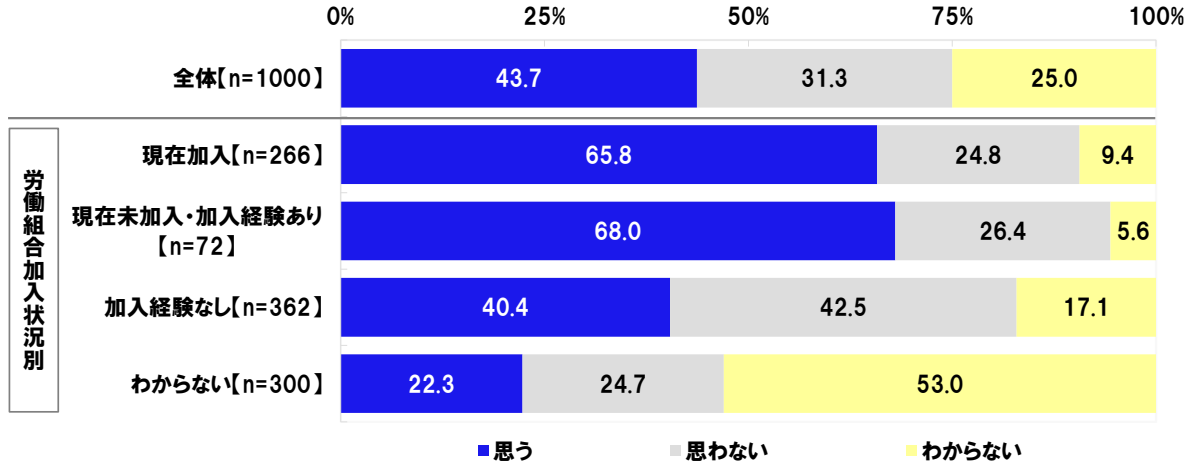


◆「キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に役割を期待できると思う」43.7%
期待できる役割　1 位「職場の悩みや違和感を相談できること」

全回答者（1,000 名）に、キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に役割を期待できると思うか聞いたところ、「思う」は 43.7%、「思わない」は 31.3%、「わからない」は 25.0%となりました。

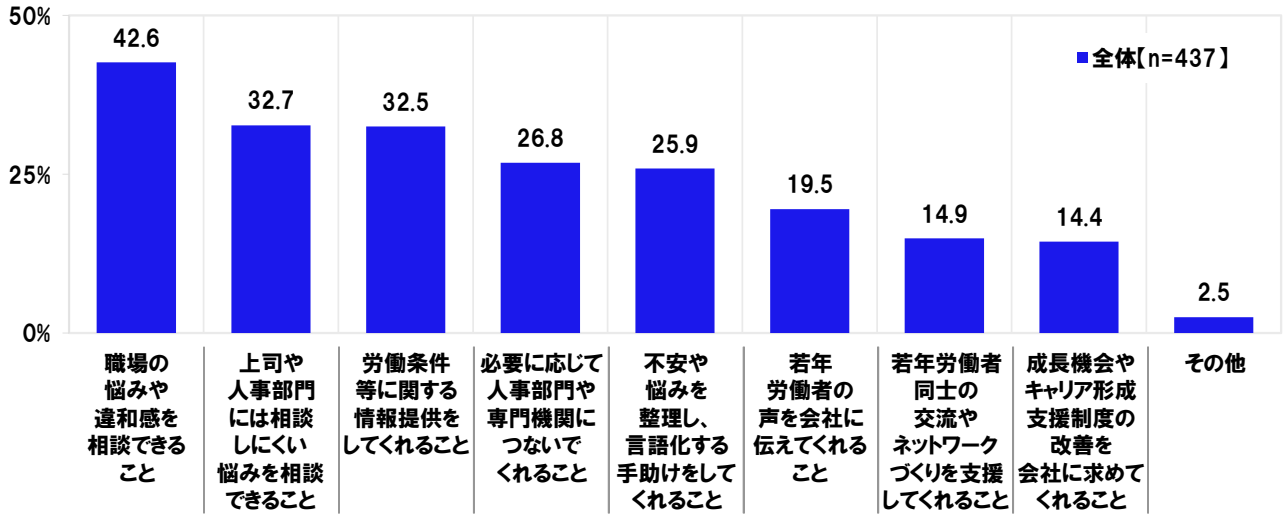
労働組合への加入状況別にみると、役割を期待できると思う人の割合は、労働組合への加入経験がある人（現在加入 65.8%、現在未加入・加入経験あり 68.0%）では 6 割台後半となっており、加入経験がない人（40.4%）や加入状況についてわからない人（22.3%）と比べて高くなりました。

キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に役割を期待できると思うか



キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に期待できる役割があると思う人（437 名）に、期待できると思う役割を聞いたところ、「職場の悩みや違和感を相談できること」（42.6%）が最も高くなり、「上司や人事部門には相談しにくい悩みを相談できること」（32.7%）、「労働条件等に関する情報提供をしてくれること」（32.5%）、「必要に応じて人事部門や専門機関につないでくれること」（26.8%）、「不安や悩みを整理し、言語化する手助けをしてくれること」（25.9%）が続きました。

キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に期待できると思う役割 ［複数回答形式］
対象：キャリアについて不安や迷いを感じた際、労働組合に期待できる役割があると思う人



≪若年者のワークルールの認識について≫

◆働くうえで必要な基本的な決まりである“ワークルール”の理解状況

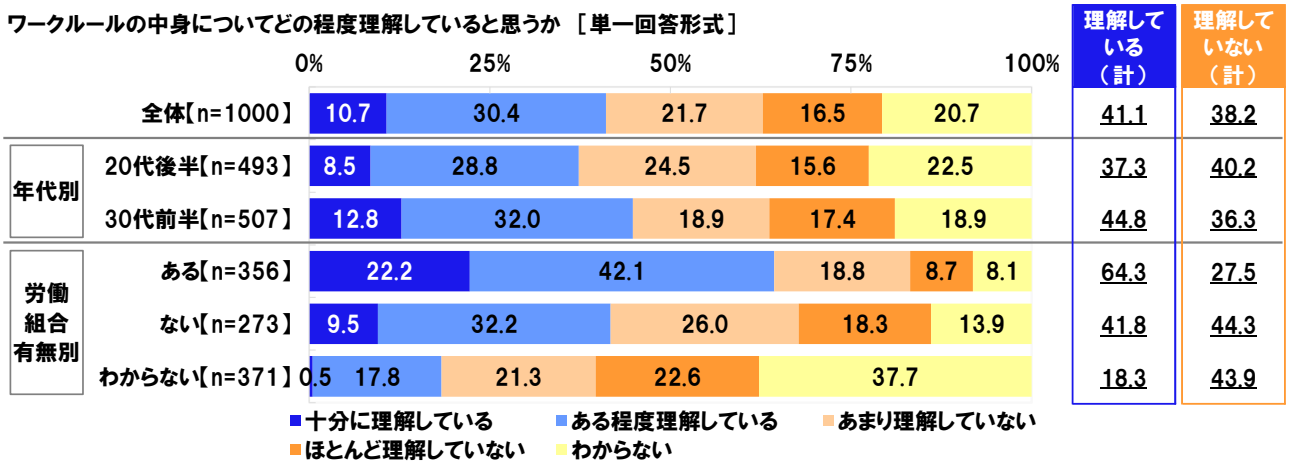
「理解している」41.1%、「理解していない」38.2%
理解率は労働組合が勤め先にある人では 64.3%と高い傾向

労働基準法などで定められている「賃金」や「休暇」、「ハラスメント防止」などに関する、働くうえで必要な基本的な決まりのことを「ワークルール」と言います。

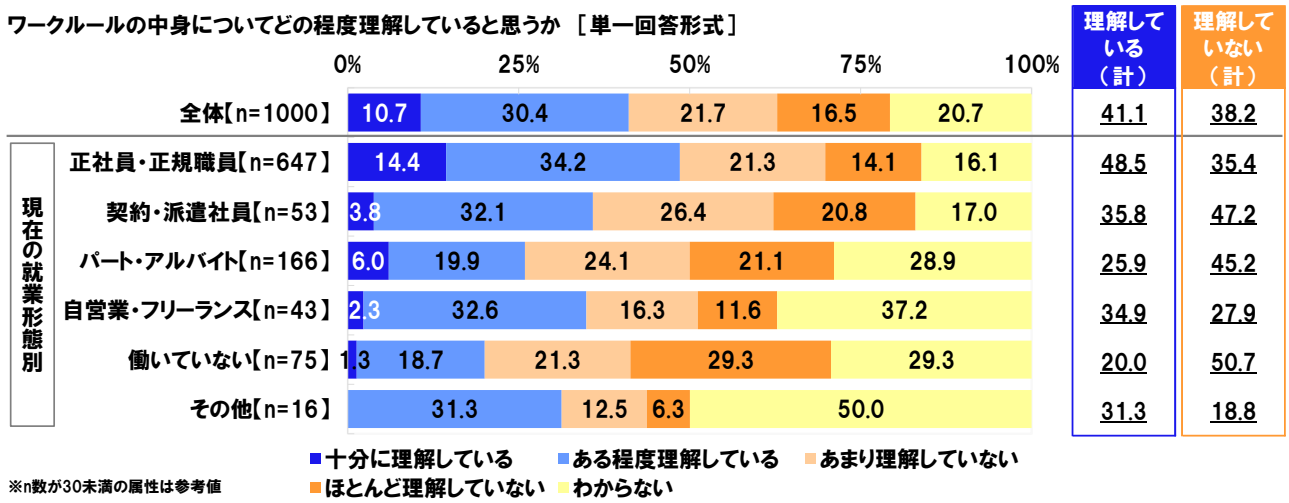
全回答者（1,000 名）に、ワークルールの中身についてどの程度理解していると思うか聞いたところ、「十分に理解している」が 10.7%、「ある程度理解している」が 30.4%で、合計した『理解している（計）』は 41.1%、「ほとんど理解していない」が 16.5%、「あまり理解していない」が 21.7%で、合計した『理解していない（計）』は 38.2%、「わからない」は 20.7%となりました。ワークルールがどのようなものなのかについて把握している人は少数派のようです。

年代別にみると、30 代前半では理解している人の割合が 44.8%と、20 代後半（37.3%）と比べて 7.5 ポイント高くなりました。

労働組合の有無でみると、理解している人の割合は、勤め先に労働組合がある人では 64.3%と半数を超えたのに対し、勤め先に労働組合がない人（41.8%）や労働組合があるかわからない人（18.3%）では半数未満にとどまりました。



現在の就業形態別にみると、正社員・正規社員では理解している人の割合が 48.5%と、パート・アルバイト（25.9%）や働いていない人（20.0%）と比べて 20 ポイント以上高くなりました。



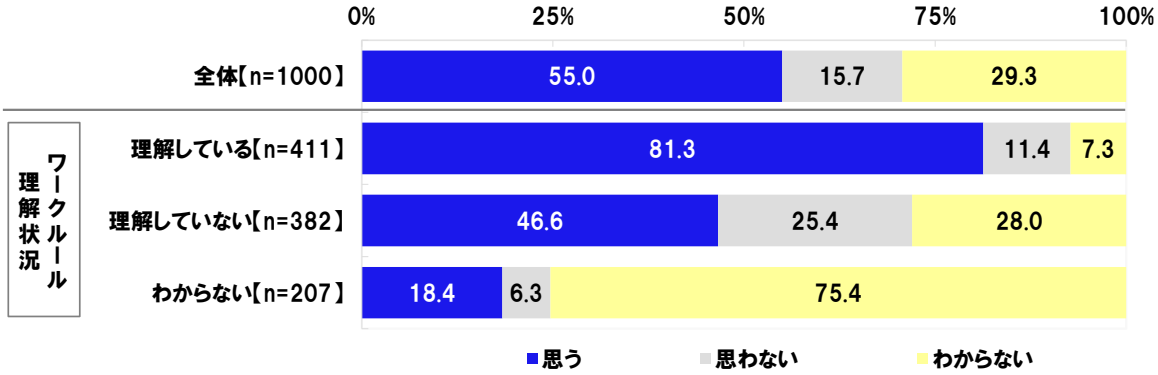
※n数が30未満の属性は参考値

◆「ワークルールを理解していることは、働くうえで重要だと思う」55.0%、重要だと思う理由　1 位「賃金や雇用など自分の権利や義務を理解し、安心して働くために必要だから」

ワークルールを理解していることは、働くうえで重要だと思うか聞いたところ、「思う」は 55.0%、「思わない」は 15.7%、「わからない」は 29.3%と、ワークルールについて知っておくことの重要性を実感している人が多い結果となりました。

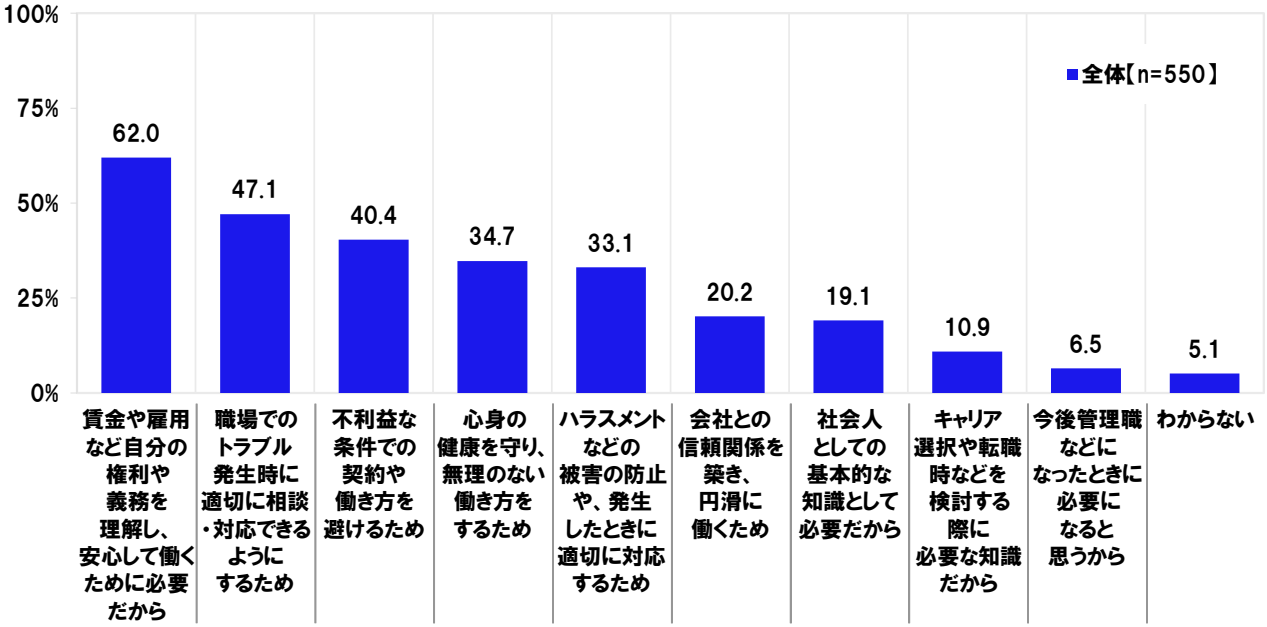
ワークルールの理解状況別にみると、ワークルールの中身について理解している人では「思う」と回答した人の割合は 81.3%と突出して高くなりました。ワークルールがどのようなものか知っているからこそ、ワークルールの重要性を実感するようになっているのではないでしょうか。

ワークルールを理解していることは、働くうえで重要だと思うか ［単一回答形式］



ワークルールを理解していることが働くうえで重要だと思う人（550 名）に、その理由を聞いたところ、「賃金や雇用など自分の権利や義務を理解し、安心して働くために必要だから」（62.0%）が最も高くなり、「職場でのトラブル発生時に適切に相談・対応できるようにするため」（47.1%）、「不利益な条件での契約や働き方を避けるため」（40.4%）、「心身の健康を守り、無理のない働き方をするため」（34.7%）、「ハラスメントなどの被害の防止や、発生したときに適切に対応するため」（33.1%）が続きました。

ワークルールを理解していることが働くうえで重要だと思う理由 ［複数回答形式］
対象：ワークルールを理解していることが働くうえで重要だと思う人

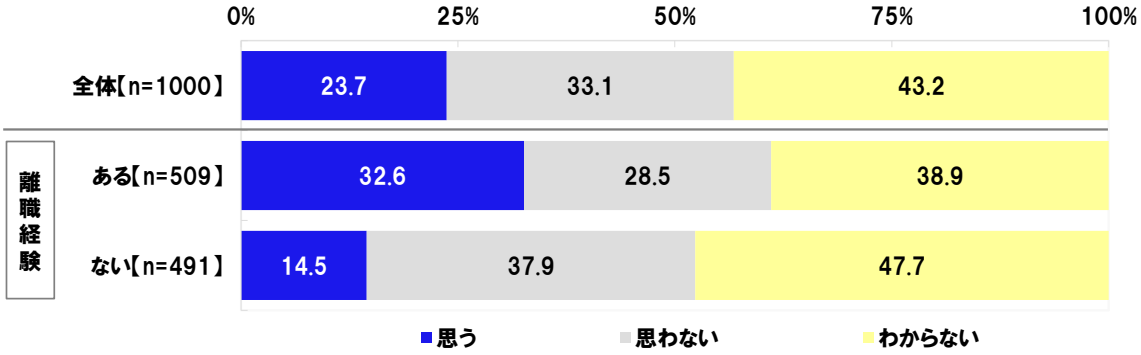


◆「ワークルールを十分に知っていた場合、学校卒業後の就職先や転職先の選択に影響があったと思う」23.7%、どのような影響があったと思う？ 1位「安心して働ける会社選びに役立ったと思う」

全回答者（1,000 名）に、ワークルールを十分に知っていた場合、学校卒業後の就職先や転職先の選択に影響はあったと思うか聞いたところ、「思う」は 23.7%、「思わない」は 33.1%、「わからない」は 43.2%でした。

離職経験別にみると、離職経験がある人では「思う」と回答した人の割合は 32.6%と、離職経験がない人（14.5%）と比べて 18.1 ポイント高くなりました。

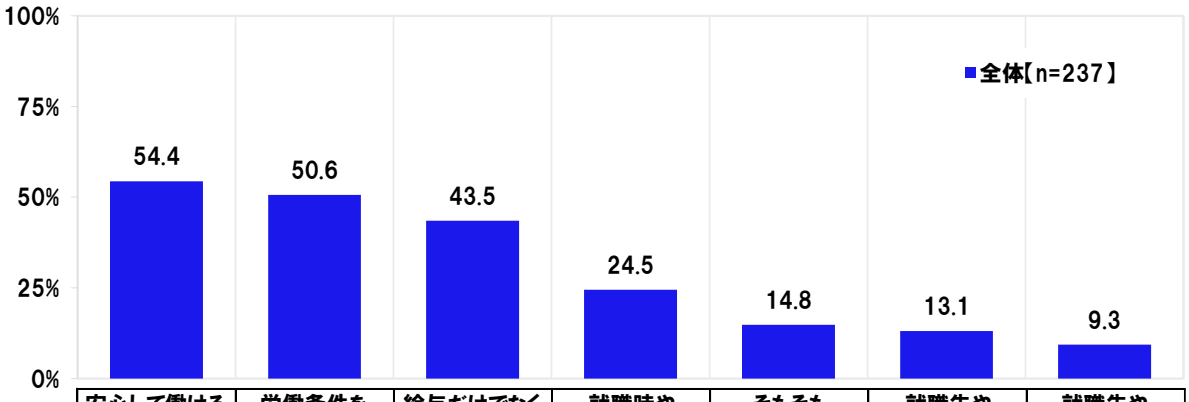
ワークルールを十分に知っていた場合、学校卒業後の就職先や転職先の選択に影響はあったと思うか ［単一回答形式］



ワークルールを十分に知っていた場合、学校卒業後の就職先や転職先の選択に影響があったと思う人（237 名）に、どのような影響があったと思うか聞いたところ、「安心して働ける会社選びに役立ったと思う」（54.4%）が最も高くなり、「労働条件を比較して就職先を選べたと思う」（50.6%）、「給与だけでなく福利厚生も重視するようになったと思う」（43.5%）、「就職時や転職時の勤め先との条件交渉（給与・働き方など）に役立ったと思う」（24.5%）が続きました。

離職経験別にみると、離職経験がある人の 5 人に 1 人が「そもそも離職・転職をしなかったと思う」（21.1%）を挙げました。ワークルールについてしっかり把握していなかったために、キャリアの歩み方を悔いている人が少なくないようです。

ワークルールを十分に知っていた場合、学校卒業後の就職先や転職先の選択にどのような影響があったと思うか ［複数回答形式］
対象：ワークルールを十分に知っていた場合、学校卒業後の就職先や転職先の選択に影響があったと思う人



		n数	安心して働ける会社選びに役立ったと思う	労働条件を比較して就職先を選べたと思う	給与だけでなく福利厚生も重視するようになったと思う	就職時や転職時の勤め先との条件交渉（給与・働き方など）に役立ったと思う	そもそも離職・転職をしなかったと思う	就職先や転職先の選択肢をもっと広げられたと思う	就職先や転職先の選択肢をもっと絞れたと思う
全体		237	54.4	50.6	43.5	24.5	14.8	13.1	9.3
離職経験	ある	166	57.8	50.6	47.6	24.1	21.1	11.4	9.0
	ない	71	46.5	50.7	33.8	25.4	-	16.9	9.9

全体比+10pt以上／ 全体比+5pt以上／ 全体比-5pt以下／ 全体比-10pt以下 （%）

注：本調査レポートの百分率表示は小数点第 2 位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合や、
全ての内訳を合計しても 100%とならない場合があります。

■■調査概要■■

◆調査タイトル　：若年者の就業およびキャリアに関する調査 2026
◆調査対象　：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする
就労経験のある全国の25歳～34歳の男女
◆調査期間　：2026年6月22日～6月24日
◆調査方法　：インターネット調査
◆調査地域　：全国
◆有効回答数　：1,000サンプル
（内訳）
［性別］　男性497s、女性495s、その他8s
［年齢］　25歳～29歳493s、30歳～34歳507s
◆実施機関　：ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

**本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と
付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。**

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

連合（日本労働組合総連合会）

総合政策推進局　雇用対策局　　担当：鈴木
TEL　：03-5295-0519
E メール　：jtuc-koyou@sv.rengo-net.or.jp

総合企画局　企画・広報局　　担当：千葉
TEL　：03-5295-0510
E メール　：jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

受付時間　：10 時 00 分～17 時 30 分（月～金）

連合総研（公益財団法人　連合総合生活開発研究所）

担当：鶴岡
TEL　：03-5210-0851
E メール　：j-tsuruoka@rengo-soken.or.jp

■■連合（日本労働組合総連合会）概要■■

組織名　：連合（日本労働組合総連合会）
代表者名　：会長　芳野　友子
発足　：1989 年 11 月
所在地　：東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 連合会館
活動内容　：すべての働く人たちのために、希望と安心の社会をつくる